

公開シンポジウム「東日本大震災に係る食料問題フォーラム 2017
—環境汚染と内部被曝問題—」の開催について（案）

1. 共 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会
合同東日本大震災に係る食料問題分科会、農学委員会農業経済学
分科会、農学委員会・食料科学委員会合同農芸化学分科会、農業情
報システム学分科会、食料科学委員会水産学分科会、畜産学分科会、
食の安全分科会、臨床医学委員会放射線防護・リスクマネジメント
分科会
2. 後 援：日本農学アカデミー、日本水産学会、日本畜産学会、日本農業経済
学会、日本農芸化学会、農業食料工学会、日本リスク研究学会、福
島県立医科大学、東京大学大学院農学生命科学研究科アグリコク
ーン、北里大学海洋生命科学部、京都大学リスク研究ネットワーク、
長崎大学福島未来創造支援研究センター、長崎大学大学院水産・環
境科学総合研究科
3. 日 時：平成29年5月13日（土）13：00～17：00
4. 場 所：長崎大学ポンペ会館
5. 分科会の開催：開催予定
6. 開催趣旨：東日本大震災によって引き起こされた東京電力（株）福島第一
原子力発電所の事故により、福島県を中心に大量の放射性物質
が環境中へ放出され、食料資源の生産現場にも大きな被害をも
たらした。この事故からすでに6年が経過し、環境放射能は一
部陸域を除き極めて低いレベルにまでなった。福島県産の農林
水産物についても安全モニタリングの普及や自主操業などによ
り、市場には厳しい安全規制をクリアした食品しか流通してい
ないが、消費者は福島県産の食品に未だ不安を抱いている。そ
こで本フォーラムでは、いかにして福島県産の食品の安全性を
消費者に理解してもらうことができるのか、放射線被ばくと健
康、食品の安全性とリスクコミュニケーションに関するテーマ
を中心に議論し、福島県の農林水産業の復興の加速に資するこ
とを目指す。

7. 次 第：
13：00 開会の挨拶

渡部 終五（日本学術会議第二部会員、北里大学海洋生命科学部特

任教授)

13：10 放射線被ばくと健康リスク：原爆被災からの復興と原発事故からの復興の相違について（仮）

山下 俊一（日本学術会議第二部会員、長崎大学理事・副学長）

13：35 チェルノブイリ原発事故と福島第一原発事故の相違について（仮）

平良 文亨（長崎大学原爆後障害医療研究所客員准教授）

14：00 川内村と富岡町での環境放射能汚染測定と内部被ばく評価

高村 昇（長崎大学原爆後障害医療研究所教授）

14：25－15：35 （ 休憩 ）

14：35 避難指示が解除された地域における環境回復と地域再建の課題

万福 裕造（国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
本部企画調整部 震災復興研究統括監付）

15：00 食の流通の安全安心の確保（仮）

菅野 孝志（ふくしま未来農業協同組合 代表理事組合長）

15：25 放射性物質の健康リスク：市民の知覚とリスクコミュニケーションの可能性（仮）

新山 陽子（日本学術会議連携会員、京都大学大学院農学研究科教授）

15：50 総合討論

（司会）中嶋 康博（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

山下 俊一（日本学術会議第二部会員、長崎大学理事・副学長）

16：50 閉会の挨拶

澁澤 栄（日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院農学研究科教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）